

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530263

研究課題名(和文) 欧州自動車産業の生産ネットワークの形成と展開に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical study on evolution of the Car Production Network in the European automotive industry

研究代表者

細矢 浩志 (HOSOYA, HIROSHI)

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号：10229198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、欧州連合(EU)の東方拡大以降の自動車産業の企業・地域間分業体制の再編動向を実証的に検討し同産業の生産ネットワークの基本構造と展開のダイナミズムを解明することにある。研究期間内に、欧州では統合深化に伴い地理(空間)的拡張(ルーマニア等の興隆)と「高度化」(中東欧でR&D拠点設立、スペインで高性能品の製造)が進展している。自動車生産ネットワークは固定分業モデルではなく地域特性を熟慮した柔軟な再編可能な「進化」モデルとして捉える必要がある。欧州有力メーカーは各社独自のネットワークの形成・活用を梃子にグローバル競争力の強化に取り組もうとしている等の結論を導いた。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this research is to make it clear the characteristics on the fabric of the Car Production Network and dynamism of its development in the European Automotive Industry, examining the reorganizational trend of regional and/or inter-company division of labor system associated with the Enlargement of European Union. I got the following conclusions in the study. (1) Spatial expansion (development such as Romania) and "Upgrading" (production of high-performance vehicles in Spain, establishment of R & D bases in Central-Eastern Europe) are making steady progress with unification deepening in Europe. (2) We need to understand the transformation of Car Production Network in Europe as a flexible "evolution" model that can reorganize its structure considering regional characteristics, not as a fixed division of labor model. (3) European multinational companies have been reinforcing global competitiveness by making a advantage of their original network.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：ヨーロッパ統合 自動車産業 生産ネットワーク 国際分業 産業発展

1. 研究開始当初の背景

(1)研究代表者は、欧州連合(EU)の東方拡大が欧州自動車産業にどのようなインパクトを与えたのかという観点から1990年代以降の大手自動車多国籍企業の中東欧展開戦略や地域間分業体制の実態解明に取り組むなかで、欧州の分業構造理解に関する以下のような疑問に直面した。第一に、独仏など伝統的な自動車産業の集積地やスペイン・ポルトガルなどかつてのEU周辺地域が衰退・縮小ではなく発展基調を保っているのは何故か。とくに低賃金活用型拠点として中東欧と競合するスペインがヨーロッパ第三位の生産台数(2008年)を維持しているのは何故か。第二に、一般に低賃金活用型製造拠点と見做される中東欧地域に高級車の製造など高機能な役割を担う拠点が少なからず存在するのは何故か。第三に、欧州産業の変貌はグローバル競争力強化とどう結びつくのかという疑問である。独ダイムラー(米クライスラーと合併、後日解消)や仏ルノー(日産と資本提携)に見るように、欧州大手企業はEUの東方拡大の時期を前後して低迷を脱し活力を取り戻しつつあるのは何故か。

(2)ヨーロッパにおける分業の実態は、「中心-周辺」関係論が想定する単純な垂直分業的構図では理解できないばかりか各集積地の機能は固定的でなく状況に応じて変化していることを示唆している。また、欧州勢の復活の秘密を解く鍵は東方拡大を機に進展したヨーロッパ規模の分業形成にあると考えられるが、域内分業の進化を競争力の規定因として位置づける取組みは少ない。欧州産業の復活は、企業・地域間分業構造をグローバル産業競争力構築の視点から捉え直すことの重要性を示唆する。

(3)こうした問題意識の究明に有益な概念として研究代表者はネットワーク概念に注目した。それは、同概念が網状に広がる組織の重層性と構成拠点間の相互補完的な役割とを強調する概念であり、非対称的かつ硬直的な分業編成理解を克服し産業競争力の構成要因の捕捉を可能にする柔軟な分析的枠組みの基礎となり得るからである。ネットワークの視点から企業・地域間分業構造とその展開のダイナミズムを明らかにすることは、欧州自動車産業の競争力構造問題に切り込むうえで重要な課題と考えた。

(4)当時、欧州産業の国際分業やネットワークをめぐる諸問題について実証的な検討を加えた先行研究は必ずしも多くなく、EU経済躍進の一要因としてネットワークの重要性を指摘する見解は表出しつつあったとはいえ、実態分析は一般的かつ初歩的な水準に留まっていた。同じく地域間産業連携が進む東アジアについては、ネットワーク概念を援用して同地域の産業発展を解明する試みや、競争優位の変化を埋め込んだ分業構造の類型化と産業発展モデルを提示する試みなど

研究が厚みを増しているのに対して、市場制度面での実質的な地域統合が進むEUを対象にした実証的な分析は立ち後れていると言わざるを得なかった。

2. 研究の目的

本研究は、欧州連合(EU)の東方拡大を契機に中東欧での製造拠点形成が相次いだヨーロッパの自動車産業を対象に、広域欧州で繰り広げられるようになった企業・地域間分業体制の再編とその動態について多面的かつ実証的な検討を加えることをつうじて、EU東方拡大以降のヨーロッパ自動車産業の生産分業ネットワークの基本構造と展開のダイナミズムを明らかにするとともに、同産業のグローバル競争力構造の解明と産業発展モデルの提示にアプローチすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1)欧州自動車産業の生産ネットワークに関する[構造分析]と[動態分析]を研究の軸に据え、両分析を随時摺り合わせつつ研究を遂行した。

(2)分析の枠組みとして、4つの産業集積地(新ペリフェリ地域=中東欧、旧ペリフェリ地域=スペイン・ポルトガル、非EU新ペリフェリ地域=トルコ、西欧コア地域)を取り上げ、各集積地域の産業特性と地域間貿易構造を比較・検討することをつうじて、欧州連合(EU)の東方拡大後に繰り広げられている企業・地域間分業体制の再編とその動態の解明に取り組んだ。

(3)[構造分析]では、ネットワークを構成する上記4産業集積地から西欧コア地域以外の3集積地(新ペリフェリ地域(中東欧)・旧ペリフェリ地域(スペイン・ポルトガル)・非EU新ペリフェリ地域(トルコ))に注目し、地域・企業間分業構造の分析(域内貿易構造・投資動向等の分析)とクラスター分析(各地域の産業特性や拠点機能の役割の検討等)をおこなった。

(4)[動態分析]では、東方拡大前と後のネットワーク(西欧ネットワークと汎欧州ネットワーク)を比較しその変容の実態と各集積地の機能・役割がどのように変化したのかについて検討する方法をとった。

(5)次いで両分析を統合し自動車生産ネットワークの変容・進展とグローバル競争力との関係性について考察したうえで研究を総括した。

4. 研究成果

(1)平成23年度(計画初年度)は、主に研究全体の理論的仮説の構築と企業・地域間国際分業の[構造分析]に取り組んだ。分析枠組みとして設定した4産業集積地の産業特性の概

要を析出し各集積地域間でそれらを比較する方法論の有効性を確認したうえで、EUとその周辺諸国(トルコやロシアなど)の経済・産業事情をはじめEU自動車産業の展開動向、広域欧州の自動車生産・国際分業に関する内外の先行研究を調査・サーベイし、基礎的な事実関係の整理と統計データ解析を進めた。とくに新ペリフェリ地域=中東欧の産業クラスター分析に集中的に取り組み中間的な総括をおこなった。低労働コストに優れる中東欧では、必ずしも「廉価小型車両の大量生産」に特化しているわけではなく、研究開発など高度な機能を担う拠点を設立する事例が相次ぐようになっていること等の知見を得た。

(2)平成 24 年度は、企業・地域間国際分業の[構造分析]の一環として、EUの旧ペリフェリ地域=スペインの産業クラスター分析をおこなった。スペイン現地への調査旅行を実施し、先行研究の指摘を踏まえたうえで欧州生産ネットワークにおける旧ペリフェリ地域の分業機能上の役割に関する中間的な総括をおこなった。研究の結果、EU 東方拡大以前の西欧ネットワークにおいて低コスト生産拠点として比較優位にあったスペインでは、東方拡大後(中東欧地域が低コスト拠点として比較優位に立った後)は、商用車・多目的車両の一大開発・製造拠点としての役割を強化し、製造事業に関する高度化が進展していることを実証的に明らかにした。

(3)平成 25 年度は、第一に、中東欧(新ペリフェリ地域)・スペイン(旧ペリフェリ地域)の産業クラスター分析の結果をそれぞれ取り纏め、生産ネットワークにおける分業機能上の役割に関する概念的な総括をおこなった。第二に、上記研究を基礎に先行研究の指摘を加味しつつ、新旧両ペリフェリ地域間対比を軸に地域・企業間国際分業構造の検討をおこない、欧州自動車産業のグローバル競争力構造の解明と産業発展モデルの提示を試みた。

(4)3 年間の研究を遂行することにより、欧州自動車生産ネットワークの基本構造の特徴を概ね把握し、ヨーロッパの国際分業や産業発展モデルに関する研究水準の向上に資することができたと考えている。研究全体をとおして具体的に解明できたのは、以下の諸点である。

欧州自動車生産ネットワークは、4つの産業集積地(独仏等の伝統的な産業集積地域(コア地域)、EU東方拡大(2004年)以前のペリフェリ地域=イベリア半島(旧ペリフェリ地域)、拠点新設の進む中東欧(新ペリフェリ地域)、EU外縁諸国(トルコ、北アフリカ地域、非EU新ペリフェリ地域))で構成され、その効率性は車種・部品等の製造事業の「棲み分け」に象徴される。中東欧地域(=大衆乗用車)

イベリア半島(スペイン=多目的車)といった新旧ペリフェリ域間での棲み分けにとどまらず、新ペリフェリ域間でも中東欧地域(=大衆乗用車)非EU外縁諸国(トルコ=小型商用車)の棲み分けが確認できる。

第二の特徴は、中東欧への自動車生産空間の拡張によってその地位が脅かされると考えられた旧ペリフェリ域が、環境変化に適応し特定事業分野への特化をつうじて生産ネットワークに不可欠の環として再編されたことである。スペインは多目的車両(SUV)等の分野での製造・開発事業の取組みを強化することで、ヨーロッパを代表する自動車生産大国としての地位を保持している(2012年時点で欧州第二位)。

第三に、新ペリフェリ域=中東欧(とくにポーランド、チェコ、ハンガリーの中欧諸国)では製造事業に加えて研究開発事業の拠点設立が相次ぐなど事業機能上の高度化が進展している。

欧州自動車生産ネットワークのダイナミズムの特質は、ネットワーク内での空間的再配置をつうじた機能再編と地域・企業間分業再編ならびにネットワーク構成各地域の「高度化」の進展にある。したがって、欧州自動車生産ネットワークはヨーロッパ統合の進展にともないさらなる進化を遂げる可能性を秘めている。今日ではルーマニア、セルビアで自動車事業の躍進が目立つなどEUを軸にした地域間の経済的結びつきは、東はロシア、南は北アフリカ・地中海沿岸諸国にまで及ぶ。

欧州自動車産業では不断に進化する柔軟で強靱なネットワークの構築が進んでいる。産業集積地の高度化は、同地域のネットワークへの連結とその内部でのグレードアップ(地位改善)が指向されることによって進展し、高度化をつうじた機能・地域間相互補完のありようが生産ネットワークの競争力を規定する。たとえば独フォルクスワーゲンは中東欧進出先発組のメリットを最大限に活かした大胆な拠点構築を展開し、欧州全体を見据えた広範な分業ネットワークの形成を着実に推進している。仏ルノーもまたルーマニア(Dacia, ロガン)を新興国対応=世界戦略車モデルの展開拠点と位置づける戦略を本格化している。欧州の有力メーカーは各社独自の広域生産ネットワークの形成・活用を梃子にグローバルな競争力の強化に取り組みもつうしているのである。

(5)研究の成果は、適宜、学術論文の公表ならびに学会報告等で社会に還元した(出版の都合により次年度以降に刊行予定の図書掲載論文を含む)。

(6)当初本研究で計画しつつも十分な取組みができなかった課題として、[構造分析]における西欧コア地域ならびに非EU新ペリフェリ域の産業特性の検討、[動態分析]におけ

るEU東方拡大以前の「西欧ネットワーク」の構造分析ならびに同ネットワークと「汎欧州ネットワーク」との比較検討、ネットワーク概念を織り込んだ産業発展モデルの提示が挙げられる。

これら残された課題の検討については、本研究によりその実施に向けた研究環境を整えることができたため、現在も引き続き研究に取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- (1) 細矢浩志「EU東方拡大とスペイン自動車産業の構造再編」『人文社会論叢』(弘前大学), 査読なし, 2014年8月(近刊)
- (2) 細矢浩志「欧州自動車産業の生産ネットワークの進化とグローバル競争力の構築」池本修一・田中宏編『日系企業の中欧・ロシア進出』文眞堂, 査読なし, 2014年8月(近刊)
- (3) 細矢浩志「スペイン自動車産業の再編と欧州生産ネットワーク」『東北経済学会誌2013年度版』第67巻, 東北経済学会, 査読なし, 2013年12月, 4-12頁
- (4) 細矢浩志「国際分業の観点からみた中東欧」『歴史と地理』第653号(「地理の研究(186)」), 査読なし, 2012年4月, 41-50頁
- (5) 細矢浩志「欧州自動車産業の生産ネットワークの形成と進化」『産業学会研究年報』第27号, 査読あり, 2012年, 111-124頁
- (6) 細矢浩志「進化する中東欧の自動車産業」『MUFG BizBuddy』ユーラシア研究所レポートサイト <http://yuken-jp.com/report/2011/11/12/%e9%80%b2%e5%8c%96%e3%81%99%e3%82%8b%e4%b8%ad%e6%9d%b1%e6%ac%a7%e3%81%ae%e8%87%aa%e5%8b%95%e8%bb%8a%e7%94%a3%e6%a5%ad-%e7%b4%b0%e7%9f%a2%e6%b5%a9%e5%bf%97/>, 査読なし, 2011年11月[三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(Web掲載), 2011年6月]

[学会発表](計4件)

- (1) 細矢浩志「欧州自動車産業の生産ネットワークの進化とグローバル競争力の構築」経済理論学会, 2013年10月6日(専修大学生田キャンパス)
- (2) 細矢浩志「スペイン自動車産業の再編と欧州生産ネットワーク」東北経済学会第67回大会, 2013年9月28日(東北大学大学院経済学研究科)
- (3) 細矢浩志「欧州自動車生産ネットワークのダイナミズム～新旧ペリフェリ域の高度化とネットワークの進化～」, 政治

経済学・経済史学会東北部会例会, 2012年12月1日(東北大学経済学部)

- (4) 細矢浩志「拡大EU自動車産業の生産ネットワークの形成と進化」産業学会第49回全国大会, 2011年6月11日:立正大学(大崎キャンパス)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細矢 浩志 (HOSOYA, Hiroshi)

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号: 10229198